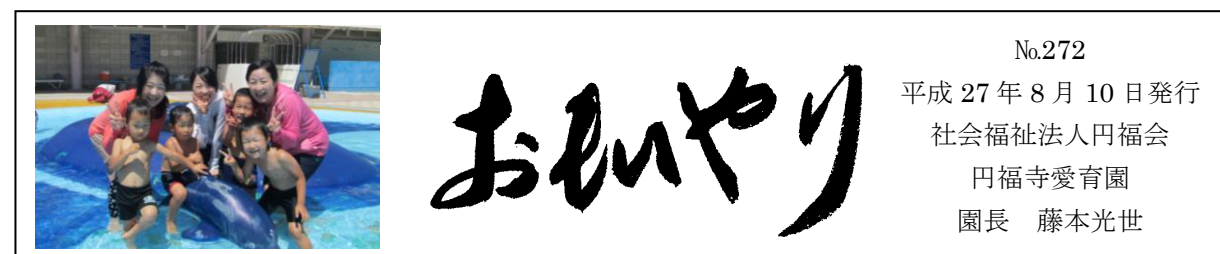


園内保育で青垣プールへ行きました。子ども達は大喜びです。



快挙!! 全種目、全員が県大会出場

園長 藤本光世

7 月 29 日に、須坂市の北部運動公園で第 53 回長野県児童福祉施設連盟東北信地区球技大会が開催されました。種目は、小学生卓球、中高女子卓球そして野球です。卓球は選手 5 名のシングルスによる団体戦です。

当園の児童は 34 名しかいません。定員に対して 16 名も空いています。そのうち、幼児さんが 4 名で高校生 1 名は東京へ帰省しています。その上、29 日は中学校の終業式と重なってしまい、5 名の中学生は出場できませんでした。

その結果、小学生卓球選手は 1 年から 6 年までの女子 9 名、中高女子卓球は高校生 4 名で 1 名不足、野球は高校生ルールで高校生は 3 名しか出場できませんから、6 名の男子小学生が全員出場、高校生 2 名が補欠です。これで、幼児、帰省、中学生の 10 名を除いた 24 名全員が選手で参加しました。入所児童全員選手は当園だけでした。

来賓のご挨拶で、中央児童相談所の所長さんが、参加選手が少ないのに驚いたと話されました。そのはずです。東北信地区には 8 つの児童養護施設がありますが、そのうち 3 つの施設は参加していません。その中には 41 名も入所している施設があります。すべての競技にエントリーしたのは当園と、50 名も入所している施設だけでした。(この施設は空きが 2 名だけです。どうして入所児童数にこんなにも差があるのでしょうか。)

球技大会は中南信地区でも開催されています。中南信地区の野球は 8 施設のうち 1 施設しかエントリーしていません。当園より入所児童数が多い施設が 5 施設もあるのに、です。なぜ 53 年も歴史がある由緒ある大会で、このように参加チームが減少しているのでしょうか。それは、球技大会にかける施設長の考え方にあると思います。子どもの養育に集団の力を生かし、日常生活に球技大会を生かして、子どもたちを立派に育てようとする考えがあれば、子どもたちを一生懸命練習させて、取り組ませるでしょう。練習を通して道具を大切にする心や感謝の心・あいさつの心・進んで後片付けをする心などを醸成するでしょう。球技大会に一生懸命取り組むことは、確実に日常生活に生きます。一種目も出場できないほど、子どもが荒れ、職員の指導が通らないのでしょうか。練習をさせることができないのでしょうか。力のピラミッドに振り回されているのでしょうか。不思議です。

野球の初戦の施設は、児童が 50 名も入所している施設ですから、選手に小学生は 1 名しか含まれていません。当園は小学生が 6 名で、ピッチャーは 5 年生、キャッチャーは 4 年生です。身長は二人とも 125 cm 程しかありません。何しろ身長 110 cm 程の 2 年生の子まで出場しないと、選手が足りないのです。その子は、身長 160 cm 以上もある中学生のピッチャーのデッドボールを受けて泣いてしまい、1 塁まで走れません。監督が塁上で泣いている子を慰めに行きました。その裏の守備になって、どこかに行ってしまい、それを探して、高校生の男の子が抱っこして、2 塁の守備位置まで連れて行ってあげました。こんな調子ですから、試合は 15 対 1 で負けました。

今年の野球の出場施設は、中南信地区で 1 チームでしたので、東北信地区に県大会出場枠が 1 つ与えられて、3 チームになりました。これが幸いしました。地区大会の出場チームは 4 チームでした。3 位決定戦で勝てば県大会に出場できます。

3 位決定戦の相手は、入所児童数が 38 名の施設でした。選手に中学生も含まれています。当園は後攻でした。初回表に 4 点をとられました。でも、相手の中学生ピッチャーはコントロールが悪く、フォアボールを連発して、続々と点が入り、ベンチは大声援です。当園の 5 年生と 4 年生のバッテリーは元気を取り戻して、終わりの 2 回を 6 連続三振で締めました。終わってみると 16 対 6 で勝利していました。県大会出場になりました。

小学生卓球は 3 位、中高女子卓球は準優勝でいずれも県大会出場です。県大会全員出場となり、地区大会に出られなかった中学生が小学生選手に感謝して「ありがとう」を連発して喜んでいました。当園が全種目全員で県大会に出場できるのは、53 年間で初めてでしょう。

出場チーム数が少ないので、県大会出場はあたりまえなのでしょう。いや違います。まず、出場できることは児童が落ち着いていて、職員の指導が心に入ることなのです。出場の裏には、4 月から一生懸命に取り組んできた練習があります。そして、練習に取り組める児童の心があります。道具を大切に、挨拶を交わし、感謝し、率先して準備や後片付けする心があります。当園は歳月をかけてそのような心を育成してきたのです。だから東北信地区球技大会に出場できることは立派であり、出場施設は少なくとも、県大会出場は立派なのです。そして、どんな逆境にあってもベストを尽くしたのです。仏さまが見ていて下さって、結果をご褒美してくださいました。



真（心）のレギュラー

副園長 青谷 幸治

今年も高校野球の季節がやってきました。当園でも高校2年の男子生徒が毎日遅くまで野球の練習に励んでいます。1年生の時はレギュラーだったが今年に入り部員も増え、レギュラーどころかベンチにも入れなくなりました。しかし彼はひた向きに野球に取り組み園での生活態度も皆のお手本となり、私がいつも言う「何でも一生懸命に取り組む。絶対に手を抜かない。」を実践する姿があります。

先日、朝のお参りで一生懸命に野球に打ち込む彼のことを全員に話しました。「今年で高校野球100年目。そして97回大会を迎える。私も25年前の72回大会の福岡予選に参加して0-5で初戦で負けた。3年生の部員は25名でベンチにも7、8名ほど入れず、夏の大会前には練習に参加せずランニングに行くと言って3km先の海に泳ぎに行っていた。本来、ベンチ入りできなかった3年生は何をやるべきか？試合に出る選手のサポートをすることではないだろうか。準備や片づけ、バッティングピッチャーなど自分の分も選手に託して是非勝ってほしいという願いを込めてお手伝いをするのではないかと思う。私の時代にはできていなかった。当時、私もメンバーに入れなかった部員の分まで頑張ろうとは思えていなかったかもしれない。そしてメンバーに入れなかった部員も同じ気持ちだったかもしれない。勝ちたいという気持ちがひとつになれたことが初戦敗退につながり、皆で3年間本当に苦しい思いをして頑張ってきたが最後は全く泣けなかった。」そんな思い出を話し、高校2年生の男子生徒はどうだろう。毎日22時過ぎに帰り、声はガラガラ、身体はフラフラ。メンバーに選ばれなくても選手と同じ気持ちで応援に励む姿。そして園でも素振りやダッシュをやり続ける姿。この姿勢がチームに活力を与え全員で勝ちにいく。そして我慢し努力し続け自分たちの代でレギュラーを勝ち取ることを目標に取り組んでいる。絶対に自分のことだけを考えていない。相手の気持ちや思いをくみ取り、相手の立場になって考え、人の為につくせる人が将来立派な人になることを高校2年生の男子生徒を褒め、励ますと同時に園の子どもたちの将来あるべき姿になってほしいという願いを込めて話をした。愛育園の子どもたちにとって、この高校2年生の男子生徒の姿こそ立派な真（心）のレギュラーです。

東北信球技大会 ～中高卓球～

監督 石崎 早織

5月から球技大会の練習を始め早いもので3カ月が経ち、あっという間に球技大会当日を迎えました。前日は最後のミーティングを行い子ども達一人一人から今回の大会に向け決意を発表してもらいました。今回中学生が終業式と重なってしまい大会当日は参加できませんでしたが、それでも最後まで一生懸命練習に取り組めた姿は立派だったと思います。高校生もこの3ヶ月間自分の出来る事を精一杯やってくれ、皆でいい雰囲気の中練習が出来るよう声をかけてくれたり、年下の児童にサーブの仕方や、返し方など一生懸命教えてくれる姿がありました。「絶対勝ちたい」「もっと強くなりたい」こういった一人一人の気持ちがあったからこそチームは一つになれたのではないかと思います。また私は練習を始めた5月から子ども達に練習だけ一生懸命やっても強い選手にはなれ

ない、日々の生活を大切にし、自分のやるべきことをしっかりやる事が一番大切だと話をしてきました。この言葉の意味を日に日に子ども達にも伝わったのか少しずつ行動が変わり、言われたことを素直に聞けたり、みんなの事を考えて動こうとする子どもが増えてきたように感じ、私の目指していたチームに近づく事ができ、とても嬉しく感じました。

そんな中で迎えた本番当日。絶対県大会に行くという強い気持ちは持っているものの不安な気持ちもあり、表情が少し硬くなっていましたが、出発の前に中学生から応援メッセージを貰いそれを励みに試合に臨みました。試合では練習で見られなかったようなプレーが何個も出たり、うまくスマッシュが決まりガッツポーズを決める子どももいました。一人が戦っている後ろではみんなが大きい声を出し応援。みんなの声を聞き緊張も少しずつほぐれて来たのか伸び伸びとした姿で試合に臨むことが出来ました。結果2施設に勝つことができ見事準優勝することが出来ました。みんなの努力が形になった結果だと思います。次は県大会！！今以上にもっともっと力をつけチーム全体が同じ気持ちで県大会に臨めるよう残りの練習も精一杯頑張りたいと思います。



東北信地区球技大会 小学生卓球

保育士 上原美恵子

約3ヶ月間に及ぶ練習を経ていよいよ球技大会当日を迎えました。朝のお参りの際にご祈祷していただいた職員手作りのミサンガを渡されて皆晴れやかな表情をしていました。

会場に到着し早速ミーティングを行いました。前日にも行っていたので一人一人自分で頑張りたいことをそれぞれ発表することが出来ました。又全体に繰り返し言われていることではありますが、きびきび行動し挨拶をしっかり行う、変にふざけたり騒いだりしないことを再度確認しました。

一回戦はS寮でした。大会のルールとして最初に3人勝った方が勝ちになりますのでトップバターはキャプテンのAさんです。本来は気が強い彼女ですが緊張からか1セット取られてしまいました。セット間に落ち着いていつも通りにやろう絶対に勝てるよと声を掛け、2セット目からは本人もようやく平常心に戻ったのかスマッシュを決める場面もあり、無事勝利を収めることが出来ました。2人目のSさんは負けてしまいましたが、3番目でチーム1の実力者Hさんはすんなり勝つことが出来ました。しかし4番目5番目の選手はようやく来た球を返せる位のレベルでしたので結局負けてしまいました。それでも各自本番で日頃の練習では見られなかったような好プレーもいくつか見られましたので、大いに褒められて二回戦に進みました。対戦相手は何年も連続優勝している

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

強豪チームです。一人一人良く基礎的部分も出来ていて、常に勝つことを意識したプレーで向かってきましたので残念ながら完敗してしまいました。それでも今年度は参加チームが3チームでしたので幸運にも県大会に出場することが出来ます。このことは事前に子供達には知らせていませんでしたので皆で大いに喜び合いました。県大会まであまり日がありませんが地区大会で感じた改善点に取り組みながら出場に向けて頑張っていきたいと思います。

球技大会 児童感想

約3カ月前に私たちは練習を始めました。今年の中高卓球のメンバーは中学生3名のうち2名が初心者、高校生は4名でした。当日は中学生が参加出来ず高校生4名での出場になりました。大会までの三ヶ月間で初心者の2人はとても成長しました。最初はみんなでラリー30回を目指し頑張りました。途中泣いてしまい諦めそうになったりしましたが、励まし合い声を掛け合って良い雰囲気をつくる事が出来ました。もっと足を動かす。声を出す。それぞれが目標を持ち、練習を始めた時よりも限られた時間の中で集中できるようになりました。監督の言葉でも、私が注意する厳しい言葉でも弱音を吐くことよりも自ら教えて欲しいと進んで言える事が多かったです。大会に行く直前に中学生から手紙をもらいました。絶対に勝たなきゃという気持ちになりました。本番の試合では高校生4人みんながいい試合が出来ました。監督が大きな声を出し私たちを支えてくれました。試合中もダメな所はダメ、出来ないところはアドバイスをしてくれ、仲間も必死で応援してくれる姿がとても心強かったです。去年よりチームの気持ちが一つになれば、今年最後の球技大会がよい雰囲気出来てとても嬉しいです。これから県大会に向けて、もっと技術面を一人一人が高め、絶対に負けない、諦めないという強い心を持てるように、もう一度まとまって優勝目指して頑張っていきたいです。(高校3年生 主将 M・S)

私は球技大会でチームの皆と団結して勝てるように頑張りました。最初に戦った施設とは私は3年生と戦いました。取っても強くて1セット取られてしまいましたが、1-2で私が勝ちました。最後の表彰式では「第3位円福寺愛育園」と言われたのでとても嬉しかったし、県大会に行けることになったのは、もっと嬉しかったです。地区大会では全体的には一回も勝つことが出来なかったもので、県大会では1回でも多く勝ちたいです。(小学生 主将 A・T)

7月29日に球技大会がありました。卓球も野球もこの日の為に練習を積み重ねてきました。卓球ではバック、フォア、サーブの練習をしてきました。ラリーも最高で42回続きました。上原先生や山口先生、ときには石崎先生にも教えてもらいました。球技大会当日はとても忙しく最後のミーティングも行いました。私は副キャプテンだったので、球技大会の目標を決めました。目標は「県大会に行く」でした。開会式が終わりS施設と試合をしました。私は3番目に試合をしました。2セットとも勝つ事ができとても嬉しかったです。結果愛育園は負けてしまいましたが、挨拶では愛育園が勝ちました。次に戦った施設にも負けてしまいましたが泣かずに最後までしっかり応援出来て良かったです。結果3位で県大会に行けて嬉しかったです。野球も卓球も県大会に行けるよう

(平成27年8月10日発行 月刊「円福」468号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

になり愛育園で県大会に行けるようになって良かったです。8月6日にある県大会で優勝できるように、また練習を積み重ねて行きたいです。(小5 H・W)

球技大会 野球

保育士 酒井悠紀

本年度我がチームは、『チーム一丸 ～するぞ限界突破～』を合言葉に大会まで日々、練習に明け暮れてきました。何と言っても今年は小学生を全員スタメンに起用しなくてはいけないという状態の中練習がスタートしました。中学生を絶対に県大会に連れて行く、これが目標でした。

迎えた地区大会。初戦の相手は松代福祉寮です。練習試合も2試合実施しました。練習試合では2試合続け10点差をつけられ大敗を喫していました。しかし本番は互いに緊張もしていますし、付入る隙は絶対にあると伝えます。そしてプレイボール、1回表愛育園の攻撃を3人で抑えられ、迎える裏の守りです。愛育園チームは小学生のバッテリーが立ちます。なかなかストライクが入らず悔しい思いもしてきたバッテリー、表情はやや固く、立ち上がりが不安定でした。フォアボールや盗塁、長打を許し、大量失点をしてしまいました。立ち上がりの弱い愛育園チーム、その後も立て続けに失点を許してしまいました。流れは完全に松代福祉寮に。悪い流れを破ろうと、高校2年長工野球班所属のY君が気持ちの入ったホームスチールを決めてくれました。静まり返ったチームも息を吹き返しました。いざ反撃を試みましたが、わずかこの1点のみ。試合の流れを終始握る事無く、敗退しました。しかし、県大会への望みがなくなった訳ではありません。今年は3位までが県大会に出場できるのです。最後の望みをかけ、中学生との約束を果たすべく3位決定戦に臨みます。

3位決定戦は、飯山学園との一戦でした。互いに県大会を目指し必死のゲーム展開が予想されます。大切な試合の入り、小学生バッテリーに託します。特に試合の流れを決める入り、丁寧に丁寧にと声を掛け合います。なんとしても県大会に出るんだという強い気持ちが、子どもだけでなく職員も持ち、誰一人としてベンチ内のイスに腰掛けるものは居ません。初回4点を失うものの、すぐさま裏の攻撃で反撃です。子ども達の表情もいつに無く引き締まり、それは真剣そのものです。そして必死でした。逆転に成功し、その後、点数を引き離しに掛か



ります。皆が一致団結していました。このとき、子ども達は限界突破をしたのだと私は感じました。その結果、県大会出場の切符が舞い込んだのです。

今回の大会は決して満足の行くチームではなく、とても厳しい状況下にありました。しかし、皆と誓った約束を、県大会出場の約束を果たそうと、一生懸命に取り組みました。試合に出た児童、ベンチで支えた児童、そして職員がひとつになったからこそ、目標が達成されたのです。大きな声、礼儀正しさ、あいさつや道具の管理、大会に臨むにあたり、全員が意識で来ていた事も素晴らしかったと思います。次の舞台は県大会。今度こそ、愛育園魂を発揮するときです。残りわずかな練習期間と、可能性を信じ、下克上、してみたいと思います。

球技大会 主将、選手感想

今年は僕にとって最後の球技大会でした。キャプテンとしてみんなをまとめる事はできませんでしたが、練習の3か月間、自分のできる力は出し切れたと思います。

去年、僕はベンチで応援していましたが、今年は、ファーストで出る事ができて嬉しかったです。

球技大会の当日は、すごく緊張してしまいました。一試合目は負けてしまいましたが、二試合目は勝つことができました。ヒットも打てました。県大会に出場できることになって、とてもうれしいです。県大会では優勝目指して頑張ります。 高3 A.K(主将)

今日は球技大会がありました。ぼくはサードで出ました。一試合目、サードにきたボールをほとんどとれました。試合にはまけてしまったけど、とれて嬉しかったです。

二試合目もサードででて、こんどは打つことができました。そして、かつこともできました。

中学生を県大会につれて行くことができてよかったです。こんどの県大会は優勝したいです。 小2 Y.Y(選手)



課外活動一学期

課外活動係 富沢正樹

小学生が休日に「思い切り遊べる」機会を作る為に始まった課外活動も今年で3年目を迎えました。今年度から課外活動を担当するようになった私ですが、一学期、課外活動を通して様々な事を発見することが出来ました。

今年度、小学1年生から6年生までの15名とアスレチック遊びに始まって、滝遊びやザリガニ捕り、トレッキングやサイクリングなどを行いました。

いざ遊びに出かけて行くと子ども達のエネルギーは凄まじくて、「ヘトヘトになるまで本気で遊ぶこと」を私自身の目標に目一杯走り回っても、帰り間際には「まだ帰りたくない」「もっと遊びたい」とブーイングを受ける事もしばしばで、本当に驚かされます。とはいえ、明るくて元気な表情を見ていると、この課外活動



が子ども達の楽しみの1つになっている様に感じられうれしく思います。2学期以降は、さらにさらに課外活動が充実して、子ども達にとって、毎週末が楽しみとなって勉強や整理整頓などの普段の生活も頑張ろうと思えるものにしていきたいです。

以下は子ども達の活動の記録です。

小布施ハイウェイオアシスに行った事

小4 A.H

今日、小布施ハイウェイオアシスに行きました。着いてまず、アスレチック鬼ごっこをしました。初めは近藤先生が鬼で、その後ぼくが鬼になりました。Hちゃんをつかまえられたけど、また、つかまってしまうました。

次に、王様ドッチボールをしました。ぼくは一回も王様にならなかったけど、チームの王様をいっぱい守りました。その次に、ふん水で遊びました。びしょびしょにぬれて遊んで楽しかったです。最後に、陸上のレーンがあったので、チームに分かれてリレーをしました。100mのレーンを行って戻ったので200mも走りました。ビリになってしまってたんだ。でも、楽しかったです。今度こんな日があったら、またいっぱい遊んで、楽しい課外にしたいです。

ぢづき山こうえん

小2 男児

今日、ぢづき山こうえんにいきました。ついたら、まず、山のぼりをしました。ぼくは、さいしょ「だいじょうぶかなあ。」とおもいました。いっしょうけんめいのぼりしました。

山のちょうじょうにつくことができました。ぼくは「やっとなつた。」とおもいました。そのあともたくさんあるきました。あるいていたら、ひみつきちみないなところがありました。そこはバイクじょうでした。なんだかぶきみでこわいきもちになりました。でもSちゃんがうたをうたってくれたのでわかってしまいました。たのしかったです。

ザリガニとり

小5 W.H

今日の課外活動は、ザリガニとりをしました。松代の東条という所でとりました。去年は93匹とれました。今年は100匹をめざそうと、一生けん命さがしたけれど、約2匹しかとれませんでした。100匹の目標と98匹の差がありました。ザリガニがとれなかったので、場所を変えて次は西条に行きました。近所の人に「ここにはザリガニはいないけどサワガニはいるよ」といわれました。本当にカニがたくさんとれました。私はカニをとるのに集中していて、いつのまにか服がぬれてしまいました。カニをとっていると、たまごを産んでいるカニが2、3匹いたのにながしてあげました。ザリガニはいなかったけど、探している間、草むらを通ったり、穴にはまったりして、なんだか冒険みたいで楽しかったです。

ザリガニやサワガニにさわれるようにもなれました。楽しかったです。





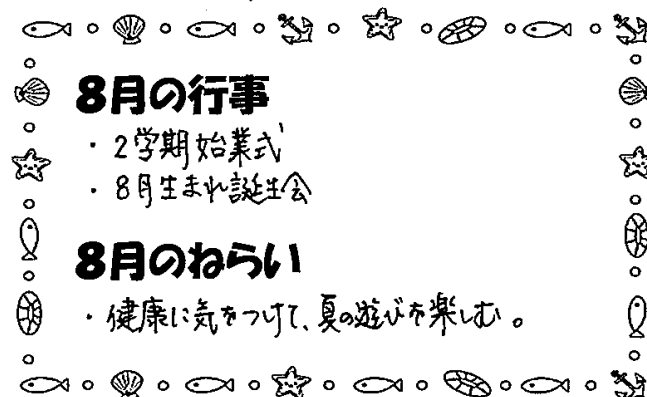
1学期が終わりました



7/28(火)に、園内保育の1学期終業式を行いました。園長先生、ホームの先生方にもおいでいただき、おまいりをしたり歌を歌いました。

子どもたちには1人ずつ、1学期に頑張ったことや楽しかったことを発表してもらいました。「プールでワニ歩きができるようになりました」「市民プールに行き、遊んだのが楽しかったよ」「市民プールに行き、先生に手を引いてもらいながら大きなプールでお魚みたいに泳げた!」「火田の草取り、頑張りました」と、それぞれに頑張ったことや楽しかったことを振り返ることができました。

そんな子どもたちに、『1学期、よく頑張ったね』と、ヒマワリのカードがプレゼントされました。カードを眺める子どもたちの表情は、ヒマワリに負けない素敵な笑顔でした。



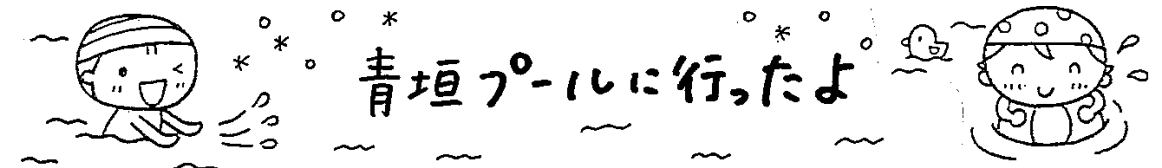
8月の行事

- ・2学期始業式
- ・8月生まれ誕生会

8月のねらい

- ・健康に気をつけて、夏の遊びを楽しむ。

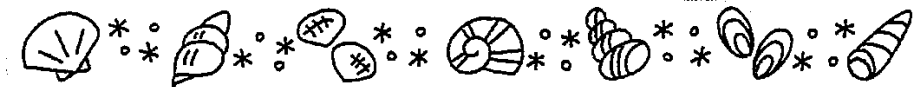
こうして1学期が無事に
終わることができました。そして、
地域の方々をはじめ、
日頃よりご支援下さる皆様の
ご理解とご協力のおかげと
心より感謝しております。
ありがとうございます。



6月は、なかなかプール遊びができるような天気にならず、子どもたちは思い切り遊べる日を心待ちにしていました。普段の園内保育では、ビニールプールでワニさん歩きをしたり、お魚のようにもぐったりして遊んでいますが、今年は「泳げるようになりたい!」という目標をもっている子が多くおり、7月14日、21日と2回、青垣プールに行ってきました。

最初は、浅いプールや滑り台で遊びました。その滑り台では、みんなドキドキしてなかなか挑戦ができずにいましたが、一番小さい年少さんが勇気を出して、トッパッターで滑りました。逞しくなったものです。後半は深いプールで泳ぎの練習です。張り切っていた年長さん、年中さんですが、実際に広くて深いプールに行くと、こわが?保育者にしがみついていた。それでも、補助をしてもらいながら徐々に慣れてくると、浮かんでみたり、バタ足をしたり、少しずつ出来ることが増え、ちひり自信がついたようです。

2学期も沢山プールに入るといいですね!



七夕 7月7日(火)、七夕の日
***** にみんなで作った七夕飾り
や願いを込めて書いた短冊を飾り
ました。飾り作りでは、1日目より2日目、3日目と作
る度に上達し、素敵な七夕飾りができ、子どもたちは
毎日嬉しそうに眺めていました。また、園長先生にも
おいいただき、自分のお願い事を堂々と発表することが
できました。そして28日(火)には七夕火焚きを行い、
燃えて空にのぼっていく煙を見ながら、みんな
手を合わせました。子どもたちが園長先生
と手をつなぎ、七夕さまを歌っている姿を見て
いたら、本当にお願い事が叶いそうな気が
しました。お空に届いたかな~♡

愛育園の職員になって

保育士 中村花歩

4月から愛育園に勤め始めてもう7月の終わりになりました。今でも分からないこと・出来ていない事ばかりですが、頑張ろう・楽しいと思えるのはこの職場だからこそというのが大きいと感じています。子ども達の明るい笑顔や「かほ先生」と呼んでくれる声に日々救われています。始めたばかりのころは自分には出来ないことをやろうとしてしまったのではないか、この子達の将来を明るい道に導くことが出来るのだろうかとマイナスにばかり考えてしまい、不安に押しつぶされそうでした。ですが、道を示して下さる園長先生、困った時は助けて下さる先輩職員の先生方、一緒に困難を乗り越えてくれる同期の先生、そして何より子ども達の存在そのものがマイナスの考えばかりでは駄目だと気付かせてくれました。マイナスの考えは伝染してしまうためプラスになるように心掛けていこうと思えるようになったのです。「やったことがないなら出来るようにしていこう。」今ではそのように考えられるようになりました。もちろん少しずつにはなってしまいますが、歩みを止めず前へ進んで行こうと思います。

子ども達の存在は救いですが1番の悩みでもあります。「この子は今どんな気持ちなんだろう?」「どうしたらこの子の心に響く話が出来ののかな?」「なんで職員を困らせるような事を言っているのだろう?」毎日が疑問で一杯です。まだ子どもとの関わっている日数が少ない為分からないことばかりです。ですが、考えて諦めずに関わっていく事で、前よりも甘えてくる子や「わたしが大きくなるまで園に居てね。」と言ってくれる子がいて、何とも言えない嬉しい気持ちになりました。分からなくても諦めずに関わっていった事がこんなにも嬉しい形で帰ってくるとは思わなかったからです。

今もまだ未熟で周りの人々に助けてもらうことが多いと思いますが、これからも自分に出来ることから頑張っていきたいと思うのでよろしくお願い致します。

愛育園の職員になって

心理士 矢吹亜依

職員として愛育園の子ども達に関わらせていただくようになって、早くも4ヶ月が経とうとしています。今こうして日々の様子を綴ろうとすると、何から始めればいいのか分からない程、4ヶ月という短い時間の中にたくさんのことがありました。なかなか言葉に出来ないほど、この日々の体験は私にとってとても大きなものだったように思います。

私はこの3月に6年間心理学を学んだ学校を卒業し、円福寺愛育園で働かせていただくことになりました。児童福祉に関わることも初めてですが、社会人として働くことも初めてです。愛育園での生活を通し、今まで学生として甘やかされていたことを痛感する日々が続いています。特に子どもとの関わりの中では分からない事だらけで失敗だらけであり、子どもを戸惑わせては反省し、先輩方にご迷惑をお掛けしては反省する、ということを繰り返しています。

このように自身の未熟さや情けなさを感じて落ち込むことが多いのですが、子どもとの関わりに励まされることも決して少なくはありません。「あい先生きた!」、「先生、一緒にあそぼ」、「先生、

今日学校でね・・・」、「あい先生!あのね、」・・・。色々な声をかけてくれる子ども達がいて、楽しそうに笑うその顔を見られること。たったそれだけのこともかもしれませんが、そのことが今の私にとってはとても嬉しいことです。そして、その顔を見られるようにもっともっと努力していかなくてはいけない、もっとこの子達を知りたい、そう思う日々が続いています。

「理由もなく起こす行動はない、行動の裏側にある心を探して、周りに伝えることを手伝うのが心理士の仕事」。学生時代の恩師が話していたこの言葉が、今の私の目標です。愛育園でも様々な先輩方から同じ事を言われてきました。日々の忙しさの中でこの言葉を忘れてしまうことも多いのですが、行動の裏側にある子どもの気持ちや心を見つけ、子どものことをもっと深く知っていけるように努力していきたいと思います。そして、楽しそうに笑うその顔が見られる時間を、もっと一緒に過ごして生きたいと思います。

ご心配やご迷惑をおかけする事も多いかとは思いますが、精一杯日々頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

自転車乗り方教室

保育士 上原美恵子

昨年までは地区で行っていた自転車乗り方教室ですが、地区の子供が減少していることから今年度は愛育園独自で教室を行うことになりました。最初にまず担当職員から自転車に乗るときの合言葉について、子供達への問いかけがありました。“えー何だったっけ?”とか“最初にハがついたと思う”と言った声は上がりましたが、はっきりと覚えている子がいませんでしたので少しずつヒントをもらいながら皆で考えてみました。そしてようやく“ハラヘッタベサブー”と言う自転車に乗る前の点検に関する合言葉を思い出すことが出来ました。まず“ハは何だったっけ?”と聞かれると“ハンドル!”と子供たちから元気良く答えが返ってきました。それからラはライト、へはヘルメット、タはタイヤ、べはベル、サはサドル、ブはブレーキと全部思い出すことが出来ました。早速合言葉に従ってそれぞれが実際に点検を行ってみました。特に自転車に問題がありませんでしたので、い

よいよ実車に移りました。コースは園の周りを一周するものですが、曲がり角には中高生に立ってもらって様子を見てもらうようにしました。一人一人颯爽と乗りこなしていました。これからもこの教室で確認したことを忘れずに事故のないよう自転車に乗ってほしいと思います。

